

# JAUW 茨城支部だより 2020年度-1号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2020年10月11日 一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発

朝夕のヒンヤリした空気に秋の訪れを感じる頃となりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。コロナに始まった今年、コロナに振り回され10月になってしまった感じがします。

さて、会員の皆様には、9月に実施しました「大学女性協会茨城支部アンケート調査」に、お忙しい中ご協力をいただき誠にありがとうございました。34名の会員からご意見を頂戴することができました。調査について結果がまとまりましたのでご報告いたします。結果から、新型コロナウイルス感染症の拡大が私たちの生活に大きな影響を与えたことが読み取れます。見えないコロナという感染症への不安や、行動制限などのストレスを感じながらも、「役に立ったこと、良かったこと、頑張ったこと」に対する皆様の声には刺激を受けます。この不安定な状況の中、前向きな姿勢で自分ができること探しや、今までの生活を見直し新しい生活を実践していることは素晴らしいです。「現在、思っていること・・・」



に対する声の中に今後の支部活動のヒントがあるように思います。SDGs（持続可能な開発目標）—誰一人取り残さない—を学び実践していくことが大学女性協会茨城支部に求められているのではないのでしょうか。17目標の中で関心の高い項目として、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑬気候変動に具体的な対策を、⑤ジェンダー平等を実現しようが挙げられました。

この中から学びを深めできることを具体化していきましょう。**力をあわせて！**

アンケートの中に、「同調圧力」のことが言われていましたが、日本人は同調圧力に弱い国民と言われていました。真実を見抜く目を、何が大切かを見極める目を磨いていきたいと思えます。



また確かに、従来の常識や固定観念が通用しなくなっていると感じます。コロナの影響で学校の授業や研修、会議などもオンラインが主流となっています。茨城支部の役員会もオンラインで実施しました。役員からは、お互いの顔が見えて意見の交換ができるということで好評でした。今後、支部の研修もオンラインを視野に入れていきたいと思えます。

コロナは私たちに、社会とは？人間とは？生きるとは？等の宿題を出しています。私たちは答えなければなりません。明日という希望に向かって！！！！  
(支部長 安藤)



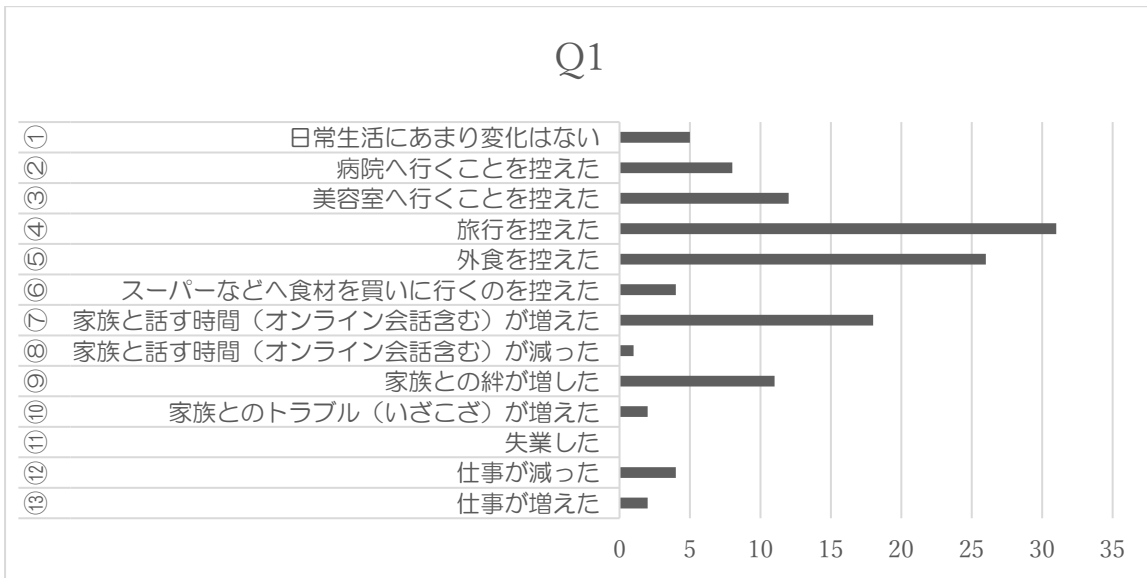
## コロナ禍アンケート集計

アンケートへのご協力ありがとうございました。

34名の方から回答をいただきました。

(平均年齢 69.9歳、最年長年齢 85歳、最年少年齢 53歳)

**Q1**：今回のコロナ禍での暮らしや仕事に、どのような影響がありましたか。以下の当てはまる番号すべてを選び、○をつけてください。



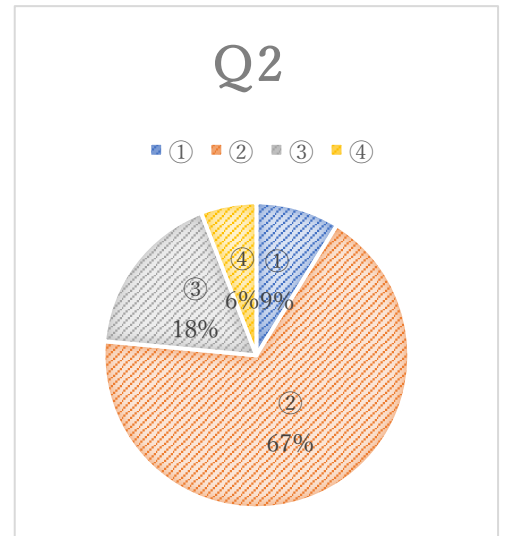
- 生活を見直し部屋の片付けなど（オウチ生活に気を付ける）
- マスク着用が負担になっている。かといって多額の金を出して冷んやりマスクを買う気にはならない。手作りマスクで何とか間に合わせている。
- 食材や日用品の買い物以外のボランティア、趣味の活動等対外的活動は全て取り止めになった。知人の飲食店（数件）を応援応援するため、テイクアウトを何回か行った。友人と会う機会が極端に少なくなり次に会うタイミングが難しい。
- 行動を制限されて、いかに一般社会と繋がっていたか思い知らされた。
- 仕事や社会的な生活が減って、家庭生活が大半となった。特に外食がなくなり朝昼晩の食事作り負担は増え、夫は補助的手伝いに過ぎなかった。
- 出張が減り家ででの時間（テレワークを含む）が増えました。
- 行動自粛により思うような活動ができないことへのいらだち。
- できるだけ「外にでないように」「人と間近に会わないように」と考えると、家の中にいる時間が長くなり積極性がなくなっている。
- 基礎疾患を抱えた高齢者と生活していると外へでることが本当に難しい。
- 勉強会や規制音楽会等々で上京する機会を失っていることがストレスになっている。
- 東京都杉並区に住む長男の所に週1回の割合で健康管理の名分で通っていましたが、月2回程度になりました。LINEのテレビ（ビデオ）電話で毎日短時間会話し、お互いの健康状況を伝えあっています。
- コロナが怖く家の中でもじっと動かずにいたら立てなくなってきて、寝たきりになるのは簡単なことだと分り、極力動くようにしました。

- 東京の研修会に出かけるのを取りやめた。県南に用事があったが電話で済ませた。
- お墓参りが出来なかった。(お墓が遠方なので) 来客が少なくなった。
- 増えた仕事は職業上のものでなく、在宅が増えた為家の中の整理の仕事が増えました。
- 衛生上の良い習慣を家族と共有できた。

**Q2**：今回の状況下で、不安は大きくなっていますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

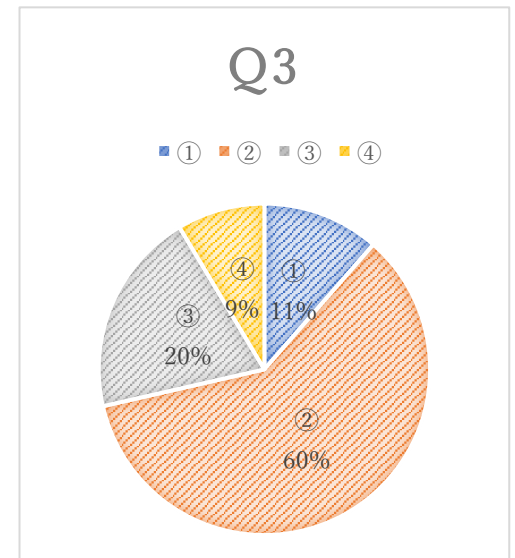
- ① とても大きくなっている
- ② やや大きくなっている
- ③ あまり大きくなっていない
- ④ まったく大きくなっていない



**Q3**：今回の状況下で、ストレスは大きくなっていますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

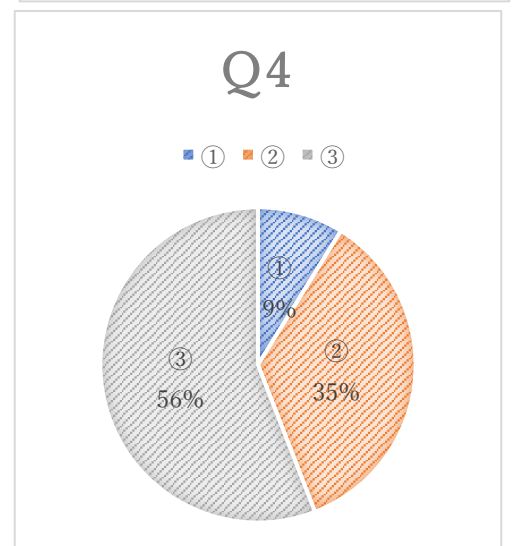
- ① とても大きくなっている
- ② やや大きくなっている
- ③ あまり大きくなっていない
- ④ まったく大きくなっていない



**Q4**：このような生活の中で、あなた自身の家事負担は変わりましたか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

- ① 負担がとも増えた
- ② 負担がやや増えた
- ③ 変わらない
- ④ 負担がやや減った
- ⑤ 負担がとも減った



※④⑤の方はいらっしゃいませんでした。

**Q5**：今回の状況下で、役に立ったこと、良かったこと、頑張ったことはありますか。

自由にお書きください。

①. 家族や友人との関係性 ②. ICT 関連 ③. 自分の体や生活の見直し ④. その他  
に分けさせていただきました。お一人のコメントを2つに分けたものもあります。

①. 家族や友人との関係性

- ・姉とメイと一緒に住んでいて、独居でないのが幸いですし、家族が有難いと思います。
- ・家族と一緒に過ごす時間がふえた。
- ・同じ思いを持つ仲間と会えないのが辛かった。

②. ICT 関連

**WE ARE ONLINE**

オンラインでイベントを開催しております。  
プロフィールのURLにアクセスし、ご参加ください。



We are having a party online.  
Join us at the link in bio.

- ・オンラインでの打ち合わせや交流が出来るようになり、まだまだ使いこなすことは出来ていないが、新しいコミュニケーションも便利で良いものだと思う。
- ・オンライン会議が増えオンライン会議の参加・開催ができるようになった。
- ・社会全体の IT 化が進み、テレワークやオンライン会議等が一般化したこと（ワークバランスと仕事の効率化の両面で良かった点です）
- ・リモート会議を経験できてよかった。このような機会でないと経験することはなかっただろう。
- ・仕事の一部がリモートになり仕事をこなす量が増えた。休みをとれるようになった。

なった。リモートで可能な仕事が増えた。

- ・オンライン会議、オンライン授業などのやり方に関する知識が増えた

③. 自分の体や生活の見直し

- ・自由時間が増えたので、着物リメイクのブラウスやエコバッグ作りをしてみた。ストレス解消にもなり、良い発見だった。
- ・読書の時間が増える等、時間がゆっくり経過したので、家事等ゆとりを持ってやりることができた。
- ・時間ができた為、2月からウォーキングをはじめ5 kg体重が落ちた。
- ・手洗い・消毒等が増え衛生的になった(家族も) 少し断捨離ができて家も心もすっきりした。
- ・否応なしに自立生活を見直す必要があると気付かされた。
- ・役に立ったこと良かったこと⇒走り続けてきたことをじっくり顧みる機会となり、家の中の整理、実家の整理ができた。小学1年生となった孫の自粛中の自宅学習支援ができたこと。頑張ったこと⇒手作りマスクを100枚製作し、娘や孫、東京の友人等にプレゼントできたこと。使い捨てマスクは連日ゴミを輩出することになるので環境負荷にも貢献できたと思う。町内会長と班長の任務が当番で回ってきた。書面評決を行使して懸案事項が一気に賛成多数の意見を反映して解決できたこと。
- ・1週間毎に行動の予定をたて、まとめて行動するようになった。(食生活、衣生活、草取りなど)
- ・大学時代の友人とラインでのつながりがより強くなった。
- ・地味な基本的な事の中に大切なものが見いだせた。(毎日の食事作り、子供、孫達が通学する等)
- ・これまで動く(移動)時間に費やしていた分を日頃滞っていた住環境の整備を丁寧になすことができ、一人住まいではあっても充実感があつた。また、パソコンを新機種にしたりテレビに録画機能をつけたりして快適に過ごす工夫をした。
- ・出て歩けない為筆不精がなおつた。(お返事を大切にしようと思った。)

- ・水戸市内を散歩する機会が増えた。
- ・今までは家業の運営までは深く携わらなかったが、ウィズ コロナになってからは、急にやることが増えた。職員と職場環境などで話し合うことも多くなり、職員同士もこのストレスフルな困難に対し、互いに乗り越えようという意欲がみえる。自分としてはこれまで培ってきた男女共同参画の理念・ワークライフバランス・テレワークなど積極的に勧め 職員に対する声掛け、コミュニケーションなど、現場の職員一人一人に対する理解やフラットな関係性を持つことができた。今までの活動が現場での対応に非常に役立っている。
- ・積んどいた本を読むことができた。家の片づけができた。ZOOM を学ぶことができた。家庭菜園を楽しむことができた。
- ・体調管理に一層気を付けるようになった。
- ・新しいワークバランスについて考えるきっかけとなりました。

#### 4. その他

- ・宅急便を心して使った。
- ・全 30 巻の長編小説を読み始め、現在 20 巻終了。
- ・否応なしに自立生活を促された
- ・図書館の利用が制限され、on-line の e-book を購読して読み始めました。 1 冊が500~700円で費用が掛かりますが、字を拡大できるし、on-line で辞書の利用、メモの記入が出来、喜んでいます。
- ・新型コロナの問題について、いろいろな角度から科学的な情報が提供されていたので、自分や廻りの状況を的確に判断することができた。



**Q6**： 現在、思っていることを何でも自由にお書きください。

- ・全国を歩いて日本文化を伝える。
- ・コロナ問題。、政府の初期対策は的確ではなかった。特に中国の春節季の来日規制習近平への忖度、東京五輪へのこだわりが、コロナ対策への遅れとなった。
- ・対面して会話する、人と人が触れ合うことが日常生活に彩りを与えていることを実感した。リモートでの会議や仕事、授業など技術革新も重要だが人と人との直のつながりは失くしたくない。今の状況が暫くの間であることを祈ります。
- ・コロナの終息にむけては全世界が歩調を合わせなくてはだめ。
- ・近所の方との対話が減った。態度も少し変わった方がいてウィルスよりも人の心に対して神経質になった。
- ・一日も早くコロナが終息することを願ってはいるが、共存も視野に置かなければ
- ・想定外の出来事が増え従来の常識や固定観念は通用しなくなったと思う。今こそ YOROI を脱いで新しい生き方を模索しなくてはと思った。直接会えなくてもオンラインで会話や会議ができると確信した。グローバルにつながった世界を分断して生きるのは難しく、世界市民という生き方が求められ、分断した社会をいかにつなぎ合わせていくか、大女の支部活動がその役割を果たしていければと思う。
- ・経済への影響が想定以上に大きく、今後倒産や雇用状況の悪化が懸念される。生活困窮者の増加が予想されその対応が重要。影響は弱い立場の人ほど大きい。

#### SOCIAL DISTANCE

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため  
間隔をあけてお並びください。



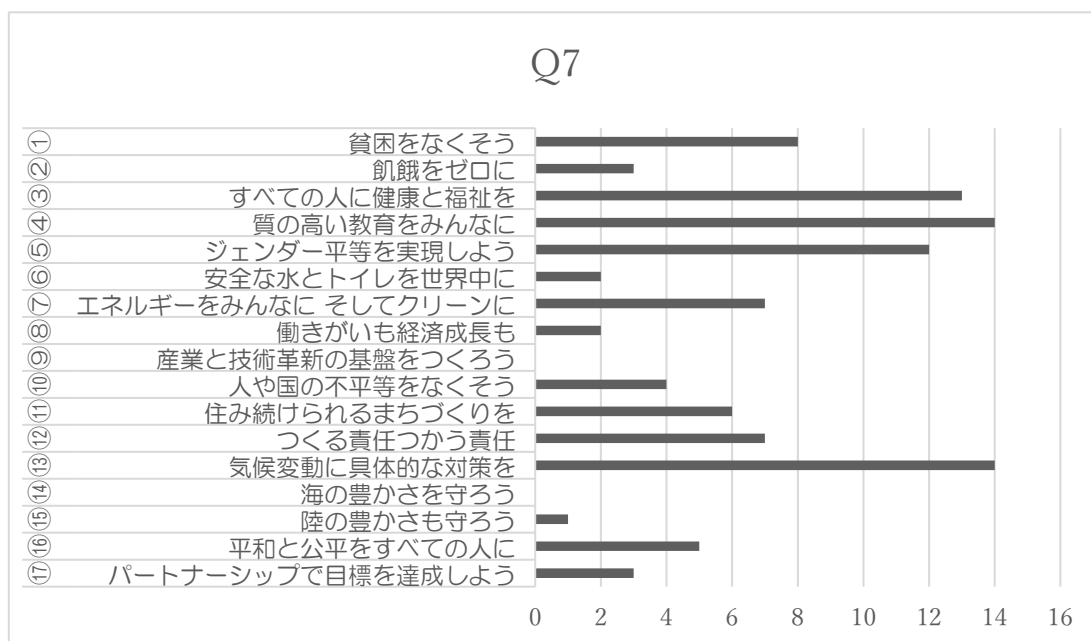
Please keep a distance from other customers  
due to COVID-19.

- 今回はコロナだけでなく猛暑対策も同時に考えなくてはならず、私の家では夫が90歳を超えたので夫の身の回りもあり、気を緩める事はできない。
- 社会への影響は何十年にも及ぶだろう。日本は今や先進国ではない後進国だという議論もある。どうなる？
- 人との交流によって喜びも自分の成長もあるとしみじみ感じています。
- 老親がコロナに感染しないか不安。
- こういう状況の中で次の世代の為にも希望をどう作り出していくかこれが私達の責任だと思う。
- 誰もがスマホや携帯電話を持つ時代、もっと低価格で利用できるようになったりテレビは勿論エアコンも完備され、健康的な衣食住環境が約束される社会であって欲しい。質の高い教育も大切だし、生きがいも大切。しかし経済不安のない社会、生活水準が約束される社会を希望。
- 若い時から忙しかったのがジッとシンとしている本来の私を取り戻せた気分。高齢なので健康維持のため万事に気を付けねばとわかりました。
- コロナ禍によって、いろいろな活動が中止になり、社会との接点が限られ、グローバルな世界が衰退していくことが心配です。これからを担う子供たちの教育の格差・遅れなどがどうなっていくのかも。
- コロナの終息を祈っている
- 仕事は家で computer を使ってするため、在宅勤務や何処でも computer があれば働ける状態が10年になります。問題は一人で働いているので、新しい IT の知識を確実に組み入れられるのか心配です。高齢と一人で働いては、孤立してしまうでしょうか？
- コロナウィルス感染症の報道が様々流れていますが、惑わされない目を持つことが大切だと思います。今、社会が、一人ひとりの心が試されているのかもしれないかもしれません。前を向いて、何ができるかを考えたいと思います。
- 水戸市が漸くプラスチックゴミの収集を始め政府もプラスチックゴミ問題に取り組み始めたようだ。しかしゴミ置き場に溢れたプラスチックゴミの山を見ると、この問題は深刻さを増してきている。レジ袋の有料化はこの問題の解には結びつかないと思う。私達が使うものに責任を持つ(4R)ことが必要だと思う。
- 私たち全体が、利己主義から利他主義への変換が必要になったと思います。これまでも言われてきたことではありますが、今後はその変換ができなければ、国としての発展はないと思います。
- 国際社会を震撼させるような大規模な災害が今回のコロナ禍の現象です。現況は何年かは続くようですが、そのプロセスで東西対立も南北問題も深刻化していく気がします。そのような困難ななかで世界をどう構築しなおしていくかが問題になりますが、誰一人取り残さない社会を再建(?!）するために個々人の声を生かせる(システムとはいわないまでも)ルートづくりができることを願っています。つくりたいものです。
- 年を重ねても学びたい気持ちがわいてきた。



- 先日のコロナ禍給付金 10 万円に対し、菅官房長官が記者からの「もらいますか」の質問に「常識でしょ」の軽いひと言。この言葉は「困ってない人は遠慮するのが常識！」という意味あいテレビからピンピンと伝わってきた。その後いくつかの県、市、町のトップが「職員全員に遠慮してもらう」など発言が報道された。その先どうなったかは知らないが、菅官房長官の「常識」という価値観が社会に浸透しそうな空気があった。もし公務員対象に実施したなら、人権が後回しにされ、これこそ同調圧力！マスコミは全くこの言葉に反応しなかった。もちろん菅さんも自分の言葉の無意識の偏見に気づいていない。こういうトップの発言は重い。「正しき選択でご協力を＝同調圧力」この現状にマスコミもしっかり、すかさず反応してもらいたい。「同調圧力」の怖い所は私たちが無意識のうちにどこに連れていかれるか、気が付いたときは遅いということだ。注目していかなければと考える
- 新しいワークバランスについて考えるきっかけとなりました。

**Q7** SDGs(持続可能な開発目標)についての講座開催を考えています。17の目標の中で関心の高い項目を3つ選んで○をつけてください。



## お知らせ

### 1. 定例会

下記の要領で3回シリーズの勉強会を（リモート）開催いたします。

- ・テーマ 「子育ての社会化について考える（参加型）」
- ・講師 中島 美那子
- ・日時 12月19日(土) 1月30日(土) 2月13日(土)  
14:00~16:00  
(できるだけ、3回連続でご参加ください)

茨城キリスト大学教授  
専門分野 発達心理学  
保育臨床学  
※茨城支部会員

- ・申し込み方法 いずれも安藤支部長宛

PC qqyq8ag9k@diary.ocn.ne.jp

FAX 029 (263) 3150

- ・締め切り日 11月30日(月)までにお申し込みください。

※ リモートでの参加が初めての方には、事前に ZOOM 使用の練習日を設けたいと思います。また、基本的にはリモートで開催いたしますが、リモート参加が困難な場合は、対面での参加方法を検討いたします。どうぞご相談ください。

### 2. 茨城県女性団体連盟 35周年記念「連盟のつどい」開催要項

- ・日 時 令和2年12月9日(水) 10:00~14:00
- ・会 場 水戸京成ホテル2階 瑠璃の間
- ・記念講演 10:30~12:00

演題:「国際宇宙ステーション ~活躍する女性宇宙飛行士~」

講師:元筑波宇宙センター所長 宇宙アカデミーきくやま代表 菊山 紀彦氏

- ・交流会 会食(12:00~14:00)
- ・参加費 一人5,000円(交流会会食代)

※参加申し込み 10月23日締め切り 各団体10名くらいの参加を見込んでおります。  
安藤まで申し込みをお願いします。

### 3. 「ダイバーシティ推進センター」オープニングイベント

- ・日 時:令和2年11月14日(土) 13:00~15:45(会場 12:00)
- ・会 場:駿優教育会館8階音楽ホール
- ・講演:「幸せを掴むポジティブカ」 講師:アン ミカ氏

- ・トークセッション

- ・申し込み方法:2020年10月12日(月)9:00~受付開始

申し込み専用フォーム、または、氏名、郵便番号、住所、電話番号、年代を明記  
のうえ、FAXで申し込む(郵送での申し込みは無効)

申込先:茨城県女性活躍・県民協働課 男女共同参画センター

FAX:029-233-1330